

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
文学部	日本語日本文学科		4		19	23	13	
	英語文化学科 英語グローバル学科				24	28	13	
	心理・社会福祉学科				22	26	13	
教育学部	教育学科				15	19	13	
心理・社会福祉学部	心理学科				10	14	13	
	社会福祉学科				24	28	13	
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科				22	26	13	
	スポーツマネジメント学科				16	20	13	
生活環境学部	生活環境学科				23	27	13	
	情報メディア学科				18	22	13	
社会情報学部	社会情報学科				12	16	13	
食物栄養科学部	食物栄養学科				15	19	13	
	食創造科学科				17	21	13	
建築学部	建築学科			24	28	13		
	景観建築学科			28	32	13		

音楽学部	演奏学科				19	23	13	
	応用音楽学科				18	22	13	
薬学部	薬学科				24	28	19	
	健康生命薬科学科				20	24	13	
看護学部	看護学科				21	25	13	
経営学部	経営学科				22	26	13	
<p>(備考) 英語文化学科は令和5年度より英語グローバル学科へ名称変更。心理学科、社会福祉学科、スポーツマネジメント学科および社会情報学科は令和5年度に新設。完成年度を迎えていないためシラバスは1年次科目のみ添付している。</p>								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<p>ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/course/pdf/daigakujitumu.pdf</p>
--

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

武庫川学院ホームページ 法人役員 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho.j/files/pdf/index/corporate-officer.pdf

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社役員	令和5年4月1日～ 令和9年3月31日	会社経営経験に基づく法人運営への助言、卒業生連携、国際交流促進
非常勤	弁護士	令和4年4月1日～ 令和8年3月31日	経営企画及び私立学校法関連法令
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p><シラバス作成過程></p> <p>前年度</p> <p>8月 シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始</p> <p>10月 シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼</p> <p>12月 学長より各学科長にシラバス点検依頼(予告)</p> <p>11月～1月 各教員シラバス作成</p> <p>1月 各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼</p> <p>2月 各学科長より学長へ点検結果報告書 提出</p> <p>3月 教育支援システムでシラバス閲覧可能</p> <p>当年度</p> <p>4月 ホームページで公表</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>ホームページ</p> <p>https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/syllabus/2023/syl_2023.htm</p> <p>教育支援システム (在籍学生はログインし、シラバスメニューを選択することで授業計画の検索が可能となる。)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し、周知徹底を図っている。また学部教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験又は平素の学習状況(授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、レポート課題、実技課題及び授業への積極的な参加度など)を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。</p>	

<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>成績評価基準に基づき、信頼性及び公平性を確保した厳正な成績評価がおこなわれている。GPAは予め設定した算出方法により算出し、成績証明書や父母等宛て成績通知書に記載している。また学生が、自らの学業成績の状況を的確に把握し、適切な履修計画とそれに基づく学習への取組みに役立つように、教育支援システム(Web)でGPAに基づいた学科内順位やクラス内順位を本人に開示している。それにより、相対的な学力の状況を学生自身が確認できる。GPA算出方法は紙媒体(Student Guide 2023)及びホームページで公表している。また、令和元年度前期の成績から「科目別成績結果一覧」により、得点分布状況をホームページで公表している。</p> $\text{GPA} = \frac{(\text{履修登録した科目}^* \text{のグレード} \cdot \text{ポイント} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{\text{履修登録した科目}^* \text{の単位数の総和}}$ <p>※ 履修登録した科目には、不合格科目も含む。卒業非算入科目はGPA対象外(ただし、資格課程科目はGPAの対象となる)。</p> <p>これらの取組みは、全学部同様の取扱いで行われている。 添付資料「成績の分布状況を示す資料」</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>Student Guide 2023- <i>For Academic Studies</i> - (大学) Student Guide 2023 -For Academic Studies 武庫川女子大学 (mukogawa-u.ac.jp)</p> <p>ホームページ：成績評価 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades01</p> <p>ホームページ：成績情報の公表 https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/grades/index.html#grades03</p>
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>武庫川女子大学は、「立学の精神」にうたわれる“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を兼ね備えた有為な女性を育成するため、本学の教育目標に掲げる以下の資質・能力を身につけ、所属する学部・学科での卒業が認定された者に、専門分野の名称を付記した学士の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自ら課題を見つけ、解決のために実践できる。 2. 主体的に学ぶ習慣、論理的に考える力を身につけている。 3. 幅広い教養に裏付けられた豊かな心を身につけている。 4. 高い倫理観に支えられた実践力・指導力を発揮できる。 5. 専門的知識を修得し、それらを活用することができる。 	
<p>卒業の認定に関する方針の公表方法</p>	<p>ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/university_policy.pdf</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人武庫川学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
財産目録	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
事業報告書	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html
監事による監査報告(書)	https://www.mukogawa-u.ac.jp/~koho/financial.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/saiten.html

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/evaluation/hyouka.html

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 文学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html ）
（概要） 文学部は、人間の本质と文化的所産を人文諸科学の観点と方法により探究し、探究の過程と成果に基づき、時代と社会の要請に応じうる有為な女性を育成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_policy.pdf ）
（概要） 武庫川女子大学文学部は、人間存在の本質および人類が創り出した文化全般につき人文諸科学の観点と方法を用いて探究し、その過程と成果を通して、現代から未来にわたる社会の要請にこたえる有為な女性を育成します。以下の資質・能力を身につけたうえで所属する学科において卒業要件を満たし、学長が卒業を認定した者に、それぞれの専攻分野の名称を付記した学士の学位を授与します。 1. 独自に課題を発見し、解決に導くために創意工夫して、主体的に実践することができる。 2. 主体的に学ぶ意志と習慣を持ち、論理的に思考する力を身につけている。 3. 幅広い教養に裏付けられた豊かな感性を備えている。 4. 高度の倫理観と使命感に支えられた実践力・指導力を発揮することができる。 5. 専門的知識を修得し、それらを社会の諸方面で実践的に活用することができる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_policy.pdf ）
（概要） 武庫川女子大学文学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、体系的かつバランスのとれた教育課程を編成し、学習者の知的好奇心を涵養するとともに主体的積極的な学びを促します。学習者は、「共通教育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」および「特別教育・資格関係科目」にわたって計画的に履修し、1つ1つの科目の学びがもたらす意義を自覚して、知識・技能・判断力を養成します。 「基礎教育科目」では専門教育への導入的役割を担う授業を開講します。全学的に実施している「初期演習」は、学生が主体的に学び、実践する姿勢を身につけるとともに、コミュニケーション能力を高め、学生相互の豊かで円滑な人間関係の構築を目指します。そのほかの科目では、専門分野の学びの基礎となる知識を修得し、倫理観を育成する教育を行います。 「専門教育科目」ではそれぞれの学科における専門知識を修得し、さらにその知識を体系的に統合して実践的に応用する能力を養います。そうして得られた学識と能力とを駆使して、最終学年では卒業論文に結実させます。 教育課程の編成にあたっては、開講学年・配当学期・科目ナンバリングをあらかじめ示すことで科目間の順次性・体系性を確保します。また、開講科目に設定される知識と技術を修得し、その実践的活用を可能にするために、アクティブラーニングなど学習者の能動的学習を促す教育手法を活用します。 各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、学習者に対してあらかじめ評価指標を明示し、適切かつ公正な評価を実施します。また、卒業論文をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_policy.pdf）</p> <p>（概要）武庫川女子大学文学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・資質・意欲を備えた女性を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高等学校までの教育課程を偏りなく修得し、十分な基礎学力を身につけている。 2. 人文諸科学の学修研究に積極的にとり組む姿勢と意欲を持っている。 3. 将来に向けての見通しと目的意識を確立している。 4. 豊かな感性と公平な視点を持ち、考え方の異なる他者とも協同して活動することができる。 <p>また、開設する学科のそれぞれの専門性やディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ人材像に対応する、透明性の高い公正な入学者の選抜試験を複数の機会および方法で行います。</p>

<p>学部等名 教育学部</p> <p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p> <p>（概要） 教育学部は、立学の精神と教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、時代と社会の要請に応えつつ高度化していく教育・保育を担える有為な女性の育成を目的とする。 この目的を実現するために、教育学・保育学の優れた知見を広く学び、その応用と研究により学びを深めることを通じて、国内・国外の様々な教育・保育の場において必要とされる優れた実践的指導力、高い意欲及び創造性を養う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_kyou_policy.pdf）</p> <p>（概要） 本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（教育学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 現代の教育・保育を支える教養的知識を幅広く有している。 1-2 教育・保育に関する奥深い専門的知識を有している。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 教育・保育の実践を行うために必要な技能を有している。 2-2 教育・保育に関わる多様な人々と積極的にコミュニケーションをとり、連携・協働することができる。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 国際的視野に基づいた批判的思考力および創造的能力を備えている。 3-2 教育・保育に関する課題解決に向けて、様々な情報を統合し、論理的な思考と理性的な判断ができる。 4. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 4-1 教育・保育に関わる熱意と責任感を身につけている。 4-2 教育・保育に関して、生涯にわたり学び、研究し続ける力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_kyou_policy.pdf）</p>

(概要)

本学部は、学生一人ひとりが自らのキャリアプランに則して履修することで、幅広い教養と奥深い専門的知識に基づく思考力や判断力を養い、教育・保育実践のために必要な熱意や責任感、そして技能を身につけることをめざします。本学科が掲げる教育目標とディプロマ・ポリシーを達成するため、「小学校教育コース」、「小学校・中学校教育コース（国語専修・英語専修）」、「幼児教育・保育コース」および「国際教育コース」という4つのコースを設け、「共通教育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」にわたって、「学科演習科目」「初年次コース共通科目」、コースごとの「基礎プログラム」「発展プログラム」などからなる教育課程を編成します。

「共通教育科目」は、現代の教育・保育を支える幅広い教養的知識を身につけ、的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図るための科目群です。「学科演習科目」は、1年次から4年次までを通して、クラス担任またはゼミ担当教員の指導のもと、問題や課題を解決する力とともに、学生が自ら調べ、考え、まとめ、表現する能力を養う科目群です。

「初年次コース共通科目」は、1年次に開講され、現代の教育・保育を支える幅広い教養的知識を身につけ、的確な判断力を養うとともに、人間性の涵養を図るための科目群です。

「基礎教育科目」は、主に1年次に開講され、外国語運用能力や情報処理能力、健康や運動に関する知識や技能など、学士として必ず身につけておかなければならない資質の基礎を養う科目群です。また、4つのコースに分かれる前の共通科目として開設され、教育者・保育者になるための基礎となる科目群です。

「専門教育科目」は、主に2年次以降に開講され、4つのコースに分かれて履修します。全コースに、「基礎プログラム」と「発展プログラム」が設けられています。

「基礎プログラム」は、小学校、中学校あるいは幼稚園教諭としての知識・技能・態度を身につけるため、教育職員免許法に基づいた必修科目および選択科目で構成されています。

「発展プログラム」は、一人ひとりの「強み」を育てるために選択必修あるいは選択科目により構成されています。それぞれのコースにおいては、教育に関する基礎理論や教科内容論に関する科目、保育内容の基礎的科目をはじめとして教科指導法などの応用的・実践的な科目や、より専門的な内容の科目への履修へと進み、さらに教育・保育実習、教職実践演習を履修するというように、適切な順序性をもって開講期を設定します。発展プログラムでは、学生自らが「強み」を身につけるために主体的に選択して学べるように、いずれのコースにおいても多彩な選択科目を開講します。

副免許・資格プログラムとして、小学校教育コースには「幼稚園教育プログラム」と「特別支援教育プログラム」を、幼児教育・保育コースには「保育士プログラム」を、国際教育コースには「中学校教育（英語）プログラム」を設け、教育職員免許法・児童福祉法施行規則に基づいた科目を履修できるようにします。ただし、各コースで学ぶべきことを適切な順序性を持って学べるように、基礎免許のための必修科目は3年次後期の「教育実習」までに集中的に学び、副免許のための必修科目は主に3年次後期から4年次にかけて履修できるように開講期を設定します。

国際教育コースには、グローバル化に伴う教育ニーズや教育環境の変化に応える人材を育成するため、多文化共生社会への移行、国際的な教育援助、海外（帰国）子女教育、グローバル・シティズンシップ教育を担い、国際的に貢献できる教育者を養成する「国際教育プログラム」を設けます。

2年次後期には、希望者を対象に、海外の教育を体験的に学び、英語運用能力を高めるMUSC留学プログラムがあります。

教育課程全般を通じて、グループ・ディスカッションやグループワーク、プレゼンテーション等のアクティブ・ラーニングの教育方法も活用し、学生の理解と実践力を高めます。

教育課程の評価については、卒業研究および教員免許に係る実践演習科目における学修状況をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_kyou_policy.pdf）

（概要）本学部・学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

本学部・学科が育成しようとする資質・能力の基礎となる学力や思考力・判断力を有し、教育や保育について明確な目的意識を持って積極的に勉学に励もうとする意欲ある女性を受け入れます。また、本学部・学科では、小学校教諭一種・幼稚園教諭一種・中学校教諭一種（国語）（英語）・特別支援学校教諭一種免許状および保育士資格が取得できますので、特に教員や保育者として活躍するための資質・能力を高めようとする熱意や責任感を有する者を受け入れます。高い資質・能力を持つ教員または保育者となるためには、文系・理系という枠組みに捉われず、国語、英語、日本史、世界史、数学、化学、生物などの科目を幅広く履修し、確かな基礎学力を備えておくことを求めます。

学部等名 心理・社会福祉学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ
https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）

（概要）
心理・社会福祉学部は、幅広い教養と豊かな人間性を備えるとともに、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない（leave no one behind）世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に向けて、自ら考え行動する力、他者と共に生きる社会の共同的な価値を創造する力、社会の多様性や異質性を理解し社会的な課題に立ち向かうことができる力を備えた人材の育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_sin_sya_policy.pdf）

（概要）
武庫川女子大学心理・社会福祉学部では、来るべき人間中心社会の担い手として、「誰一人取り残さない（leave no one behind）世界」の実現に向けて、社会が抱えるさまざまな課題の解決や新たな価値創造のために、心理学や社会福祉学の知識とスキルを積極的に活用して「持続可能な社会」の実現に貢献できる人を育成します。心理学科・社会福祉学科のそれぞれが定める能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された心理学科の者には、学士（心理学）の学位を、卒業が認定された社会福祉学科の者には、学士（社会福祉学）の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ
https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_sin_sya_policy.pdf）

（概要）
武庫川女子大学心理・社会福祉学部は、ディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を身につけた人材を育成するために、体系的かつバランスのとれた教育課程を編成し、主体的積極的な学びを促します。学習者は、「共通教育科目」「基礎教育科目」「専門教育科目」および「特別教育・資格関係科目」にわたって計画的に履修し、1つ1つの科目の学びがもたらす意義を自覚して、知識・技能・判断力を養成します。
「基礎教育科目」では、専門教育への導入的役割を担う授業を開講します。全学的に実施している「初期演習」は、学生が主体的に学び、実践する姿勢を身につけるとともに、コミュニケーション能力を高め、学生相互の豊かで円滑な人間関係の構築を目指します。

そのほかの科目では、専門分野の学びの基礎となる知識を修得し、倫理観を育成する教育を行います。

「専門教育科目」では、それぞれの学科における専門知識を修得し、さらにその知識を体系的に統合して実践的に応用する能力を養います。そうして得られた学識と能力とを駆使して、最終学年では卒業論文に結実させます。

教育課程の編成にあたっては、開講学年・配当学期・科目ナンバリングをあらかじめ示すことで、科目間の順次性・体系性を確保します。また、開講科目に設定される知識と技術を習得し、その実践的活用を可能にするために、アクティブラーニングなど学習者の能動的学習を促す教育手法を活用します。

各科目の学修成果の測定と評価にあたっては、学習者に対してあらかじめ評価指標を明示し、適切かつ公正な評価を実施します。また、卒業論文をもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_bun_sin_sya_policy.pdf）

（概要）武庫川女子大学心理・社会福祉学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー) および教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・資質・意欲を備えた女性を求めます。

1. 高等学校までの教育課程を偏りなく修得し、十分な基礎学力を身につけている。
2. 人間中心社会の理念を理解し、持続可能な社会の実現に向けて積極的にとり組む姿勢と意欲を持っている。
3. 他者と共に生きる社会における共同的な価値の創造を希求することができる。
4. 社会の多様性、異質性に謙虚に向き合い、社会的な課題に立ち向かう意欲を持っている。

また、開設する学科のそれぞれの専門性やディプロマ・ポリシーに掲げる資質・能力を持つ人材像に対応する、透明性の高い公正な入学者の選抜試験 を複数の機会および方法で行います。

学部等名 健康・スポーツ科学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）

（概要）

健康・スポーツ科学部は、幅広い専門知識並びに豊かな人間性と倫理観を養い、学校や企業、地域社会で活躍できる優れた健康・スポーツの実践者・指導者・管理者となる有為な女性を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_ken_policy.pdf）

（概要）

本学部では、健康・スポーツを科学的・専門的に学ぶ意欲を持ち、本学の「立学の精神」と「教育目標」に賛同し、本学の定める修業年限以上在籍して「健康・スポーツ科学科」あるいは「スポーツマネジメント学科」の教育課程〔共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得〕を修めた者に各学科が定めた学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_ken_policy.pdf）

<p>(概要)</p> <p>本学部における健康・スポーツ科学科ならびにスポーツマネジメント学科では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「学部共通専門教育科目」として健康・スポーツ科学に関する基礎的・専門的知識を体系的に学べる科目を配置します。また、それぞれの学科では「学科専門教育科目」を通してより高度な専門的知識と技能を身につける教育課程を編成します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_ken_policy.pdf）</p>
<p>(概要) 本学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ各学科の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p>

<p>学部等名 生活環境学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p>
<p>(概要)</p> <p>衣服、インテリア、住居、建築から、街・都市空間、地球環境までを連続した生活環境としてとらえ、さらにこれに関わる歴史や生活文化的視点も取り入れながら、理系と文系の考え方を融合させた幅広い視野に立って、新しい時代に対応できる人間性豊かな、専門性と創造的 capability を持った有為な女性を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_sei_policy.pdf）</p>
<p>(概要) 本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 124 単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（生活環境学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 生活環境に関わる事象に対して、文化的・社会的な観点からの専門的知識を有している。 1-2 快適で健全な生活環境を形作るための、科学的・工学的な観点からの専門知識を有している。 1-3 生活環境を豊かにするモノに対して、造形的な観点からの素養を身につけている。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 生活環境を構成する事象を定量的・論理的に分析し、問題の解決につなげることのできる技能を有している。 2-2 生活環境を構成する事象に対し、創造的なアプローチをし、表現する技能を有している。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決する能力を身につけている。 3-2 新たな課題に対して、創造的能力と表現力を身につけている。 4. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 4-1 社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度を身につけている。 4-2 生涯にわたり、自立して学び続けるための意欲と向上心を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_sei_policy.pdf）</p>

<p>(概要)</p> <p>本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような学ぶ分野について、多様な方向からアプローチしていくとの方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>私たちを取り巻くモノや状況である生活環境は、最も身体に近い衣服から、生活用品、インテリア、住居・建築物、街・都市へと広がっています。これらを対象に、1年次では、暮らしの中のモノ・空間・事柄と人との関係について広い視野で学んだのち、2年次から被服学コース、アパレルコース、生活デザインコース、環境デザインコース、建築デザインコース、まちづくりコースの6つのコースから2コース（メイン・サブ）を選択して学びます。メインコースに所属するとともに、他コースや学科共通科目を履修することで、幅広い学びを実現します。</p> <p>学ぶ内容は、文系・理系・造形系に広く及びます。座学だけではなく、演習・実習・実験という主体的な学修方法を通して、ディプロマ・ポリシーを達成します。学んだ集大成としての卒業研究に結実できたかどうかで、その達成度を評価します。</p> <p>「被服学コース」繊維・染色・洗浄・衛生から、生産、消費に至る広範な分野を豊富な実験・実習を交えて学び、品質の選択眼や取り扱い方に関する能力を養います。</p> <p>「アパレルコース」ファッション産業を構成する多様な事項を学び、アパレル製品の企画・製造・市場などに関わる知識・技能を習得し、産業全体の素養を深めます。</p> <p>「生活デザインコース」家具、雑貨、カフェなど生活を豊かにする「モノ」や「空間」と、「ひと」ととの関係を調査・企画・デザイン・プレゼンテーションする力を養います。</p> <p>「環境デザインコース」照明や冷暖房、人間工学的なキッチンなど身近な室内環境から、安全で快適な都市環境まで、環境をデザインする能力を習得します。</p> <p>「建築デザインコース」住宅を基点に様々な建築を芸術、工学を含めた多角的側面から学び、豊かな暮らしの基盤となる具体的な空間を提案できるデザイン力を習得します。</p> <p>「まちづくりコース」新たな時代のまちづくりに向けて、地域の課題と資源を発見・分析しながら魅力ある「まち」を創造するための手法について、多角的な視点から学びます。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_sei_policy.pdf）</p>
<p>(概要) 本学部・学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> ①入学前には、国語、英語、数学、世界史、日本史、化学、生物といった科目を幅広く履修し、基礎知識を備えている人 ②入学後は、生活環境に関して、文化的・社会的・科学的・工学的・造形的な観点からの基礎的・専門的な知識を修得しようとする人 2. 技能・表現 <p>生活環境を構成する事象に対し、定量的・論理的・創造的なアプローチから学ぼうとする人</p> 3. 思考・判断 <p>新たな課題に対し、論理的に考え、問題を解決しようとする人</p> 4. 態度・志向性 <p>社会性を有し、他者と協調・協働して社会の発展に貢献する態度や、生涯にわたり自立して学び続けるための意欲や向上心を身につけようとする人</p>
<p>学部等名 社会情報学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p>

(概要)

社会情報学部は、情報化社会を超えるデータ駆動の新しい世界に向けて、社会科学と情報科学を両翼とし、これをデータサイエンスで結合する実践的教育研究体系によって、コンピュータネットワークがもたらす仮想空間においても、人間性をいかに発揮できる知恵と技術をそなえた人材を育成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_syazyou_policy.pdf)

(概要)

本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（社会情報学）の学位を授与します。

1. 知識・理解

1-1 社会生活に関わる事象に対し、社会的・経済的な観点から専門的な知識を有している。

1-2 社会生活に関わる事象に対し、情報科学の観点から専門的な知識を有している。

1-3 社会生活に関わる事象に対し、データサイエンスの観点から専門的な知識を有している。

2. 技能・表現

2-1 ソーシャルネットワークを活用するためのコミュニケーションやプレゼンテーションに関する技術を有している。

2-2 コンピュータ等のICT機器を活用して、情報を加工・分析するための技術を有している。

2-3 社会における様々なデータを収集し、数理的なアプローチからデータを分析する技術を有している。

3. 思考・判断

3-1 社会的・経済的な観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。

3-2 情報科学の観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。

3-3 データサイエンスの観点から身につけた専門的な知識や技能から、ICT社会の課題を論理的に分析し、問題を解決する能力を有している。

4. 態度・志向性

4-1 ICT社会における課題を自ら発見し、他人との協働を通して解決しようとする積極的な態度を修得している。

4-2 生涯にわたって自分の社会的キャリアを開拓し、社会の発展に貢献する意欲と向上心を修得している。

5. 統合的能力

5-1 文理にわたる専門的知識・技術の統合を図り、ICT社会において、新しい価値を創出できる能力を修得している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_syazyou_policy.pdf)

(概要)

本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、文理融合型の特色を活かし、「社会科学系」と「情報科学系」「データサイエンス系」を軸にしながら、ICT 社会の中の生活に関する幅広い分野の知識や技能を修得できるという方針に基づき、カリキュラムを編成します。

カリキュラムの編成は、講義・演習を中心に知識・技能を修得し、探求力と活用力を高める「専門科目群」と、実技を中心に技術を修得し、実践力を高めていく「表現実習・研究手法科目群」、総合力と主体性を養い、思考力・行動力を身につける「総合科目群」を並立させ、相互にバランスよく補完させることによって、単なる机上の知識・技能ではなく、実際の問題解決に活かせる生きた知識・技能を修得できるように工夫します。

専門科目は、下記の4つの科目群で編成します。

①生活と文化科目群

人間の生活と情報化社会との関わりを理解し、ソーシャルネットワークを編集・設計・演出する力を養うことを目的に、コミュニケーション、メディア、ネットワークの関連する基礎科目や演習科目を配置します。

②生活と経済科目群

生涯にわたって社会の一員として自分のキャリアを形成し、自己実現を図ることができるよう、マーケティング・広告、マネジメントを理解するための基礎科目や演習科目に加え、社会課題の認識とその解決に向けた対応力を身に付けるための科目を配置します。

③情報科学科目群

ICT 機器を操作して情報を利・活用する能力を高めることを目的に、コンピュータ、プログラミング、ネットワーク、セキュリティなどに関連する科目を配置します。

④データサイエンス科目群

ICT 社会において、溢れているデータの中から価値のある情報を取り出し、それを利・活用する能力を身につけることを目的に、統計学、AI、データサイエンス演習などの科目を配置します。

【情報メディア専攻】

生活と文化科目群と生活と経済科目群の科目を中心に、ICT 社会について、コミュニケーション、メディア、マーケティングなどの視点から学ぶとともに、ICT 社会を、コンピュータ、プログラミングなどの情報科学と、統計学、AI などのデータサイエンスの視点からも掘り下げることによって、より深く理解していきます。

【情報サイエンス専攻】

情報科学科目群の科目を中心に、ICT 社会の仕組みや ICT に関する知識や技能を学ぶとともに、ICT 社会を、コミュニケーション、メディア、マーケティングなどの社会科学と、統計学、AI などのデータサイエンスの視点からも掘り下げることによって、より深く理解していきます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_syzyou_policy.pdf）

(概要) 本学部・学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求めます。

1. 文系・理系という枠にとらわれず、幅広い教科・科目を履修し、確かな基礎知識を備えている。
2. ICT 社会におけるコンピュータや情報、生活に強い興味や関心をもち、生活への深い洞察力と多様なメディアを使いこなす技能を習得する能力の基盤を有している。
3. 入学後に修得した知識や技能を活かして、情報化社会の健全な発展に貢献したいという意欲を持っている。

学部等名 食物栄養科学部
教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html ）
（概要） 食物栄養科学部は、栄養士・管理栄養士の基礎資格の基礎から応用までの科目を修得させ、実践力と応用力を有する人材育成を実施する。さらに食物栄養学科では、あらゆる人々に対して食による予防・医療栄養を遂行できる指導力のある人材、また食創造科学科では国内外の食産業界で第六次産業をグローバルな発想力で企画運営できる人材の育成を目的とする。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_syoku_policy.pdf ）
（概要） 本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、食物栄養学科及び食創造科学科のそれぞれの学科が定める能力・資質を備えた者に対して、教授会の意見を聴いて学長が卒業を認定します。 食物栄養学科はヒトを対象としてあらゆる状況に対応して栄養管理能力を有する人材の育成、食創造科学科は国内外の食材料の特質に基づき食品の製造・管理・製品化や新しい食品開発の能力を有する人材を育成します。 卒業が認定された食物栄養学科の者には学士（食物栄養学）の学位を、また、卒業が認定された食創造科学科の者には学士（食創造科学）の学位を授与します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_syoku_policy.pdf ）
（概要） 本学部のカリキュラム編成は、まず、全学の方針に従い「共通教育科目」「基礎教育科目」および「専門教育科目」から編成します。 共通教育科目は、歴史的に蓄積された思想や学問について広く基礎を学び、変化の激しい現代社会において的確に判断できる知性および知識・技能の修得、真摯な学習と実践を通じ、思いやりと心の豊かな感性をもつ自律的な個人の確立を目指しています。さらに専門教育との有機的な連携に努力し、卒業後、様々な分野で社会をリードする女性を育成することも目的として編成します。 基礎教育科目ならびに専門教育科目は、管理栄養士・栄養士養成のために厚生労働省によって定められている科目を配置し、さらに食物栄養学科・食創造科学科の教育目的を実現するために、それぞれの学科において、自らのキャリアプランに即して履修することで幅広い教養と専門的知識に基づく思考力や判断力を養い、人々の健康や安全な食生活を実践するために必要な熱意や責任感、そして技能を身につけることを目指しているため、専門的かつ体系的な教育課程を設けています。
入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_syoku_policy.pdf ）
（概要）本学部は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識と技能、意欲等を有する女性を求めます。知識と技能については、高等学校で履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する者、もしくは同等の知識と技能を有する者を求めます。具体的には、入学前に、栄養学や食品学の基本となる化学（化学基礎・化学）および生物（生物基礎・生物）において十分な基礎学力を有していることと、化学や生物だ

けではなく「管理栄養士」として、あるいは「食の専門家」として、必要な問題解決能力や実践的能力を得るため、国語、外国語、数学、地理歴史、公民等の科目も幅広く学習していることを求めます。

学部等名 建築学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html)

（概要）

建築学部は、「真」「善」「美」の修得と同時に、価値基準が異なる「真」「善」「美」を互いに総合する能力を養い、安全で、使い易く、美しい、真に人間的な住環境を創生する基礎的能力を培うことを目的とする。

卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_kentiku_policy.pdf)

（概要）

本学部には、建築学科・景観建築学科の2学科があります。本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を各学科所定の履修方法に従って128単位以上を修得し、各学科で定める能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業を認定された者には、学士の学位を授与します。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_kentiku_policy.pdf)

（概要）

本学部では、学部・各学科のディプロマ・ポリシー（学習・教育到達目標）を卒業時に達成できるよう、共通教育科目・基礎教育科目・専門教育科目からなり、128単位を卒業要件とする教育課程を編成します。両学科ともに、一級建築士受験資格の学歴要件と、JABEE（日本技術者教育認定機構）が定めるエンジニアリング系学士課程の認定基準を、卒業時に満たす教育課程となります。

各学科のカリキュラムの特性に合わせ、スタジオでの一対一の対話型演習、中間講評や講評会における発表や教員の講評、講義、小テスト、実験・実習、レポート、建築・庭園・町並み、工事現場の見学等といった学修方法を組み合わせることにより、学生の理解を高めます。

また、卒業年次に提出する卒業設計・卒業論文およびその発表をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_kentiku_policy.pdf)

（概要）本学部は、建築学科・景観建築学科の2学科より構成し、次のような資質を持つ入学者を受け入れます。「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、社会に貢献できる建築・景観設計技術者を目指そうとする女性を求めます。さらに各学科が定める卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、各学科が掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。

学部等名 音楽学部

教育研究上の目的（公表方法：ホームページ

https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html)

<p>(概要)</p> <p>音楽学部は、理論と実践を通じて、音楽知識・技術及び東西文化の普遍的な美的価値観を追求するとともに、音楽応用を探究し、文化・社会の発展に寄与する音楽家をはじめ、音楽の指導者、音楽応用の専門家を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_on_policy.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部では、“高い知性”、“善美な情操”、“高雅な徳性”を備え、音楽を実践する上で必要な技能・知識を有し、様々な環境・文化の中で社会に貢献できる人間性に基づいて自立した音楽の専門家となる能力を修得し、所属する学科での審議および学部教授会を経て学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_on_policy.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、音楽の専門家養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>音楽によって社会を豊かにするため、音楽関連科目を主軸にした幅広い分野を総合的に学習するカリキュラムを組みます。</p> <p>基礎教育科目では、語学や情報処理・活用のスキルなどの向上を目指す科目のほか、アクティブ・ラーニングにより論理的思考力やコミュニケーション力を高める科目を設定します。</p> <p>専門教育科目では、音楽実技や理論、音楽史などを専修に応じて演習や実習を含む様々な形で学習します。</p> <p>社会に貢献できる女性を育成するため、系統的に科目を設定します。学習を積み重ねることによって、社会で活動する上で必要な音楽的技術や知識を身につかせます。</p> <p>卒業時の卒業演奏や卒業論文をもって、教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_on_policy.pdf)</p>
<p>(概要) 本学部は、「立学の精神」や教育目的に賛同し、本学部の卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性の入学を求めます。</p> <p>①音楽を深く愛する心と明確な目的意識を有している。</p> <p>②幅広い教養と基礎学力を有し、音楽に関する専門家として社会に貢献したいという強い意欲を持っている。</p> <p>③高度な専門性と深い知識や技術、教養を身につけるために、勉学に励み研鑽を積む積極性を持っている。</p> <p>④人間性およびバランスのとれた国際感覚を備えた音楽に関する専門家を目指す意欲を持っている。</p>
<p>学部等名 薬学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html)</p>

<p>(概要)</p> <p>薬学部は、幅広い教養と人間性豊かな専門知識を基盤として、医療と薬並びに健康に関する多様な分野で、医療人としての薬剤師をはじめ、薬の創製・管理、衛生薬学、薬事行政などの諸活動を通して、薬学に課せられた社会的使命を遂行し得る有為な女性を養成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_yaku_policy.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>武庫川女子大学の立学の精神を実現し、薬学部の教育理念およびカリキュラム・ポリシーに基づいて設定された科目を学修し、薬と健康に関わる多様な職種の専門家に必要とされる知識・技能・態度を身につけ、薬学科にあつては6年以上在学し、卒業に必要な単位数（190単位以上）を修得した者、健康生命薬科学科にあつては4年以上在学し、卒業に必要な単位数（124単位以上）を修得した者に対して、それぞれ卒業を認定し、「学士（薬学）」と「学士（薬科学）」の学位を授与します。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_yaku_policy.pdf)</p>
<p>(概要)</p> <p>本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような人材養成の方針に基づき、カリキュラムを編成します。</p> <p>教育目標を実現し、薬に関する幅広く高度な専門知識と優れた臨床能力を兼ね備えた薬剤師、高度な薬学的専門知識と科学的思考力を身につけ、薬学分野で広く研究・技術開発などに貢献できる多様な研究者・技術者人材を育成するために、教養科目・語学教育科目・基礎科学科目に続いて、年次的に専門性を高め、卒業後のキャリアに直結した「学習成果基盤型教育（outcome based education）」を実施します。</p> <p>教育課程全般を通じて、通常の講義科目だけでなく、実習、問題演習、双方向型授業といった教育手法を活用し、学生の理解を高めます。</p> <p>また、教育課程の評価については、卒業年次に提出する卒業研究論文などをもって教育課程を通じた学修成果の総括的評価を行います。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_yaku_policy.pdf）</p>
<p>(概要) 本学部は、「立学の精神」とそれに基づく教育目標に賛同し、かつ修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）およびその教育課程編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識や技能、意欲を備えた女性を求めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 自主的・積極的に勉学する態度や習慣や考える力を身につけ、生涯にわたり勉学を続ける意欲がある。 2) 人を思いやり、人のために尽くす精神を有し、常に自己を磨くことに努力を惜しまない。 3) 自然科学への強い関心と探求する心を持ち、科学的事実に基づいて自らの考察と行動をすることに努力する。 4) 薬剤師業務、新薬の創製・開発、医薬品の管理・情報提供、衛生薬学そして薬事行政などの職業に魅力を感じ、これらの職業を通して人のために貢献しようとする情熱がある。 5) 高等学校までに学ぶべき事項を幅広く修得し、入学後の学修に必要な基礎科学力と英語力を身につけている。

学部等名 看護学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p> <p>（概要） 看護学部は、豊かな人間性に裏づけられた感性を生かし、様々な健康レベルの人々（患者）を生活者としてとらえ、豊かな人間性と高い倫理観、科学的根拠に裏づけられた行動力をもって、心身両面にわたってトータルケアのできる未来志向の看護実践者を育成することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_kang_policy.pdf）</p> <p>（概要） 本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って 127 単位以上を修得し、教育目標に沿って次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（看護学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1－1 看護の対象者の生活を理解するための幅広い教養や基礎知識を身につけている。 1－2 生活者としての看護の対象者を支援するために必要な専門的知識を習得している。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2－1 看護の対象者の価値観を尊重したコミュニケーション能力を身につけている。 2－2 援助に必要な看護技術を身につけている。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3－1 看護の対象者の生活や健康を支える様々な要因（身体心理社会的）についての情報を収集し、分析することができる。 3－2 援助が必要な人の状態を明確にして、援助の根拠を特定することができる。 3－3 生活および医療全般にわたって、看護の対象者に起こりうる事態を予測し、論理的思考力と的確な問題解決能力に基づいて、最善策を導き出すことができる。 4. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 4－1 生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観を有している。 4－2 プロフェッショナルな看護師として社会に貢献する意欲を持っている。 4－3 看護師として、生涯にわたって自分を高めていこうとする強い意思・意欲を持っている。 5. 統合的能力 <ol style="list-style-type: none"> 5－1 他の医療職者や福祉関係の職種との連携を理解し、看護の対象者やその家族への援助ができる基礎的な看護実践力を身につけている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_kang_policy.pdf）</p>

(概要)

本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、次のような教育内容に基づき、以下の3つからカリキュラムを編成します。

1. 「共通教育科目」

・人の生活や生命、それを取り巻く社会や文化・環境といった幅広い教養を学び視野を広げる科目

・看護を行う上で必要不可欠な科学的な思考、論理的な思考力、コミュニケーション能力を身につける科目・女性として社会人としてキャリアを積み上げていくために必要な基本的態度を身につける科目

2. 「基礎教育科目」

・人の身体を理解し、健康や病気、障害に関する観察力や判断力を養うとともに、看護を行うときの根拠や必要性を考えることができる科目

・人の健康や障害の状態に応じて活用できる保健医療福祉サービスを理解するための科目

・看護を学ぶ基礎として、保健医療の関連情報の分析や国際的な視野で情報を得るための情報活用技術や英語力を身につけるための科目

3. 「専門教育科目」

・高度先進医療から在宅医療に至るまでの治療の目的を理解する科目

・生活者としての人を支えるために必要となる知識を学修する科目

・人の価値観を尊重したコミュニケーション能力を学修する科目

・生命の尊厳と人権尊重を基盤とした倫理観を養う科目

・援助に必要な看護技術を学修する科目

・必要な看護実践を計画し、多職種間連携を理解し、看護実践能力を育成する科目

教育課程全般を通じて、講義・演習・実習といった授業形態により、看護学の知識・技術・態度の要素を統合的に養います。

各専門科目それぞれで、対象者の人権尊重などの倫理的な視点および行政・施策に関する内容が含まれます。

また、教育課程については、統合看護学実習と修了年次に提出する卒業論文、卒業論文の研究発表・討議をもって、教育課程を通じた学修成果の総的評価を行います。

こうした看護学の学習により、本学科が目指すところである援助の対象者を「生活者」と捉え、生活の質(QOL)と治癒の促進を考慮しながら科学的な根拠に基づいた看護を導くための基盤づくりを可能とします。

なお、本学科では、所定の授業科目を修得することで、看護師の国家試験受験資格を得ることができます。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_kang_policy.pdf）

(概要) 本学科は、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)および教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能・意欲を備えた女性を求めます。

<求める人材像>

1. 看護師として保健・医療・福祉分野へ貢献する意欲がある人

2. 人の気持ちや考え方を尊重し、人間関係を築こうとする行動力のある人

3. 自ら進んで学習を続けていける人

4. 柔軟な考え方ができ、看護を探究していける人

5. 人間の理解の基本となる基礎学力(生物・化学・数学・英語・国語など)を身につけた人

学部等名 経営学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kyo_moku.html）</p> <p>（概要）</p> <p>経営学部は、本学院が掲げる立学の精神、教育目標、教育推進宣言に則り、平和で民主的な社会の形成者として、幅広い教養とグローバル化する社会への理解を有し、地域社会で生きる人々を尊重し、相互に助け合うことができる豊かな人間性を備えるとともに、経営全般に関する専門的知識と実践力を有し、どのような時代にあっても、世界のどこにいても、何歳であっても、たとえ逆境にいたとしても、自らの暮らしをその環境にあわせて構築し、そのために必要となる知識や技能を獲得し、協力してくれる人との良好な関係を築ける能力と意欲を持ち続け、国内外のビジネス社会で活躍できる人材を養成することで、“しなやかな女性キャリア”の実現に貢献することを目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_keiei_policy.pdf）</p> <p>（概要）</p> <p>本学部では、本学の定める修業年限以上在学し、共通教育科目・基礎教育科目および専門教育科目を所定の履修方法に従って124単位以上を修得し、次のような能力・資質を備えた者に対し、教授会の意見を聴いて、学長が卒業を認定します。卒業が認定された者には、学士（経営学）の学位を授与します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 知識・理解 <ol style="list-style-type: none"> 1-1 経営学に関する基礎的・専門的知識を有し、多様な経営課題を的確に理解できる。 1-2 自らが目指す将来キャリアで活躍するために必要な基礎的・専門的知識を習得している。 2. 技能・表現 <ol style="list-style-type: none"> 2-1 自らの暮らしを環境にあわせて柔軟にデザインするための技能を習得している。 2-2 他者と協力的な関係を構築するコミュニケーション能力を習得している。 3. 思考・判断 <ol style="list-style-type: none"> 3-1 広い視野を持ち、女性の特性・視点を活かして考え、イニシアティブをとることができる。 3-2 グローバルな視点とローカルな視点の双方から考え、判断することができる。 4. 態度・志向性 <ol style="list-style-type: none"> 4-1 女性として社会で活躍するための生活様式と価値観を備え、その実践に強く動機づけられている。 4-2 他者の歴史・宗教・風俗習慣などに基づく多様な文化を理解し、人と協力的な関係を構築する意欲を備えている。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページ https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_keiei_policy.pdf）</p>

(概要)

本学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教育科目」「基礎教育科目」および「専門教育科目」からカリキュラムを編成します。

(1) 大学教育へ導入を円滑にし、学びにおける準拠集団を構成するために、基礎演習を必修科目として1年次と2年次に配置します。

(2) 大学での学びに必要な基礎力を養成するため、実践的な「英語」と「情報リテラシー」科目を必修科目として1年次に配置します。

(3) 主体的で能動的な実践力を養うため、実践科目を充実させるとともに、その実践に必要な知識・態度・技術を養成する「実践へのいざない」を必修科目として1年次に配置します。

(4) 高度な学びの準拠集団を構成し、総合的な実践力を養う教育・研究の場として、「専門演習」を必修科目として3年次と4年次に配置します。

(5) 学生が、大学での学びを集大成し、後進への知見を残すものとなる「卒業研究」を必修科目として4年次に配置します。

(6) 専門教育科目への導入的役割と専門教育での学びの基礎をつくる科目として、「経営学入門」「会計入門」「マーケティング入門」「パブリックマネジメント入門」「ビジネスシンキング」および「キャリアデザイン特講Ⅰ」の必修科目を含む基礎教育科目を1年次と2年次に配置します。

(7) 学生が目指す将来キャリアの方向を3つの学びの分野（「ビジネス・デザイン・スタディーズ」「グローバル・マネジメント・スタディーズ」および「パブリック・マネジメント・スタディーズ」）に集約し、高度な知識・態度・方法論を備えた人材養成のコアとなる専門科目群を構成し、2年後期以降の選択科目として配置します。

(8) 幅広い教養と人間理解の礎となる全学共通教育科目を充実させ、選択科目として初年次から履修できるようにします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法： 大学 HP https://www.mukogawa-u.ac.jp/~kyoumuka/policytreemap/pdf/2023/pdf/university/policy/u_keiei_policy.pdf）

(概要) 本学部・学科では、「立学の精神」とそれに基づく「教育目標」に賛同し、かつ卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）および教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能、能力、態度、興味・意欲を備えた女性を求めます。

1. 知識と技能

入学までに履修する教科・科目を幅広く修得し、大学で学ぶための基礎学力を有する者、もしくは同等の知識と技能を有する者

2. 思考・判断力と表現力

人や社会、自身が目指す将来キャリアについて、これまで習得した知識や情報をもとにして、筋道を立てて自分の考えをまとめ、それを文章や口頭で表現できる者

3. 主体性と協働的態度

社会的な活動に主体的に、かつ他者とコミュニケーションをとりながら協働して取り組むことのできる者

4. 興味と意欲

経営学を中心とする本学科での学びに興味を持ち、その学びを自らの将来 キャリアをデザインするための知識・技能として活用しようとする意欲を有する者

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					3人
文学部		16人	9人	5人	1人	0人	31人
教育学部（教員養成以外）		16人	12人	1人	0人	1人	30人
心理・社会福祉学部		12人	7人	6人	3人	0人	28人
健康・スポーツ科学部		19人	6人	3人	0人	3人	31人
生活環境学部		8人	11人	0人	0人	4人	23人
社会情報学部		11人	9人	0人	1人	1人	22人
食物栄養科学部		23人	9人	3人	1人	13人	49人
建築学部		14人	7人	3人	0人	1人	25人
音楽学部		10人	3人	1人	0人	0人	14人
薬学部（6年制）		25人	4人	7人	3人	16人	55人
薬学部（4年制）		8人	1人	1人	2人	6人	18人
看護学部		14人	1人	6人	21人	0人	42人
経営学部		9人	2人	3人	2人	0人	16人
教養部		3人	2人	2人	0人	0人	7人
附置研究所		11人	2人	0人	3人	7人	23人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		496人					496人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.edusys.jp/mukogawa-u/tis/public/search					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
学長の下、委員長・副委員長以下、学部・学科及び事務部門等から選出された委員で構成されたFD推進委員会を中心として、教員の資質向上や、主体的・恒常的に行う授業の内容及び方法の改善・向上に資する全学的な取組みを行っている。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
文学部	350人	277人	79%	2,014人	1,853人	92%	67人	57人
教育学部	240人	260人	108%	1,010人	1,040人	103%	25人	19人
心理・社会福祉学部	220人	218人	99%	220人	218人	99%	0人	0人
健康・スポーツ科学部	280人	208人	74%	860人	828人	96%	20人	16人
生活環境学部	165人	171人	104%	1,150人	1,212人	105%	20人	25人

社会情報学部	180人	185人	103%	180人	185人	103%	0人	0人
食物栄養科学部	280人	294人	105%	1,150人	1,086人	94%	15人	7人
建築学部	85人	93人	109%	340人	360人	106%	0人	0人
音楽学部	50人	28人	56%	200人	141人	71%	0人	0人
薬学部（6年制）	210人	158人	75%	1,260人	969人	77%	0人	0人
薬学部（4年制）	40人	47人	118%	160人	173人	108%	0人	0人
看護学部	80人	95人	119%	320人	350人	109%	0人	0人
経営学部	200人	223人	112%	800人	830人	104%	0人	0人
合計	2,380人	2,257人	95%	9,664人	9,245人	96%	147人	124人
(備考) ・編入学生には、「若干名」で募集し入学した学生を含む。（教育学部1名）								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
文学部	637人 (100%)	15人 (2.4%)	587人 (92.2%)	35人 (5.5%)
教育学部	234人 (100%)	2人 (0.9%)	226人 (96.6%)	6人 (2.6%)
健康・スポーツ科学部	211人 (100%)	5人 (2.4%)	199人 (94.3%)	7人 (3.3%)
生活環境学部	604人 (100%)	38人 (6.3%)	551人 (91.2%)	15人 (2.5%)
音楽学部	45人 (100%)	2人 (4.4%)	41人 (91.1%)	2人 (4.4%)
薬学部（6年制）	189人 (100%)	0人 (0.0%)	170人 (89.9%)	19人 (10.1%)
薬学部（4年生）	36人 (100%)	8人 (22.2%)	26人 (72.2%)	2人 (5.6%)
看護学部	72人 (100%)	3人 (4.2%)	68人 (94.4%)	1人 (1.4%)
合計	2,028人 (100%)	73人 (3.6%)	1,868人 (92.1%)	87人 (4.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項) (進学先) 武庫川女子大学大学院、大阪公立大学大学院、兵庫教育大学大学院、大阪教育大学大学院 (就職先) 兵庫県、大阪府、大阪市、神戸市、株式会社 アインホールディングス、横浜市、株式会社 サンドラッグ、I & H 株式会社、学校法人 武庫川学院、エームサービスジャパン 株式会社、学校法人 兵庫医科大学、株式会社 スギ薬局、堺市、グリーンハウスグループ、医療法人 徳洲会、医療法人 医誠会、株式会社 アイセイ薬局、社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会、生活協同組合 コープこうべ、地方独立行政法人 神戸市民病院機構、奈良県、医療法人 錦秀会、岡山県、株式会社 アカカベ、積水ハウス 株式会社、株式会社 キリン堂、株式会社 ベネッセスタイルケア、株式会社 南都銀行、関西電力 株式会社、大阪府警察、独立行政法人 地域医療機能推進機構 (JCHO)、尼崎市、日本調剤 株式会社、明石市、ANA関西空港 株式会社、イオンリテール 株式会社、クオール 株式会社、たんぼぼ薬局 株式会社、愛媛県、株式会社 LAVA International、株式会社 あみだ池大黒、株式会社 オイシス、株式会社 キタムラ、株式会社 クリーク・アンド・リバー社、株式会社 スタジオアリス、株式会社 ストライブインターナショナル、株式会社 育星会、株式会社 二川工業製作所、京都府、三井住友トラスト・ビジネスサービス 株式会社、住友林業ホームテック 株式会社、大和ハウス工業 株式会社、淡路信用金				

庫、尼崎信用金庫、日清医療食品 株式会社、日本生命保険 相互会社等（4人以上採用されている企業を掲載）
（備考）就職先は4人以上の就職実績があり、採用の多い順からピックアップ

心理・社会福祉学部、社会情報学部、食物栄養科学部、建築学部、経営学部は未完成につき卒業生なし。

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
文学部	567人 (100%)	536人 (94.5%)	1人 (0.2%)	14人 (2.5%)	16人 (2.8%)
教育学部	218人 (100%)	206人 (94.5%)	0人 (0.0%)	4人 (1.8%)	8人 (3.7%)
健康・スポーツ科学部	193人 (100%)	184人 (95.3%)	0人 (0.0%)	2人 (1.0%)	7人 (3.6%)
生活環境学部	583人 (100%)	559人 (95.9%)	1人 (0.2%)	10人 (1.7%)	13人 (2.2%)
音楽学部	50人 (100%)	45人 (90.0%)	0人 (0.0%)	4人 (8.0%)	1人 (2.0%)
薬学部（6年制）	220人 (100%)	145人 (65.9%)	43人 (19.5%)	17人 (7.7%)	15人 (6.8%)
薬学部（4年制）	35人 (100%)	31人 (88.6%)	0人 (0.0%)	4人 (11.4%)	0人 (0.0%)
看護学部	74人 (100%)	68人 (91.9%)	0人 (0.0%)	4人 (5.4%)	2人 (2.7%)
合計	1,940人 (100%)	1,774人 (91.4%)	45人 (2.3%)	59人 (3.0%)	62人 (3.2%)

（備考）2019年度入学者（4年制）2017年度入学者（6年制） 留年に原級留置含む
中途退学者に除籍者含む 留年していない卒業延期はその他に含む 転学部等は調査対象のみカウント
薬学部では薬学科で設定している進級要件に満たなかった学生が留年となっている。

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要）	
＜シラバス作成過程＞	
前年度	
8月	シラバス作成依頼文・作成要領の校正開始
10月	シラバス作成要領、作成日程等を会議で諮る 会議後、各教員へシラバス作成依頼
12月	学長より各学科長にシラバス点検依頼（予告）
11月～1月	各教員シラバス作成
1月	各学科長より各学科教員作成のシラバス点検・修正依頼
2月	各学科長より学長へ点検結果報告書 提出
3月	教育支援システムでシラバス閲覧可能
当年度	
4月	ホームページで公表

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
<p>授業科目の成績評価における妥当性、信頼性及び公平性を確保するために、「成績評価に関する規程」を設け、教員に配付し周知徹底を図っている。また学部教授会や成績評価の依頼文書により成績評価の厳格化を説明している。なお、成績評価については評価の妥当性、信頼性及び公平性の観点から、試験又は平素の学習状況（授業内容に関する小レポート・小テスト、口頭発表、レポート課題、実技課題及び授業への積極的な参加度など）を総合して行うものとしており、あらかじめシラバスに評価方法を明示し、その評価方法・基準に従って厳格かつ適正に評価している。</p> <p>また、卒業又は修了の認定に当たっての基準については、</p> <p>① 卒業又は修了認定にあたり、本学の定める修業年限以上在学し、履修方法に従って卒業単位数以上を修得することが前提条件となる。</p> <p>② ①を前提条件として学科別のディプロマ・ポリシーにより、学生が身につけるべき能力・資質の目標を明示し、目標を達成した学生に対し、教授会の意見を聴いて学長が卒業の認定をする。卒業が認定されたものには、学士の学位を授与する。なお、ディプロマ・ポリシーはホームページで公表している。</p>				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
文学部	日本語日文学科	124 単位	有	49.5 単位
	英語グローバル学科	124 単位	有	49.5 単位
	心理・社会福祉学科	124 単位	有	49.5 単位
教育学部	教育学科	124 単位	有	49.5 単位
心理・社会福祉学部	心理学科	124 単位	有	49.5 単位
	社会福祉学科	124 単位	有	49.5 単位
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学科	124 単位	有	49.5 単位
	スポーツマネジメント学科	124 単位	有	49.5 単位
生活環境学部	生活環境学科	124 単位	有	49.5 単位
	情報メディア学科	124 単位	有	49.5 単位
社会情報学部	社会情報学科	124 単位	有	49.5 単位
食物栄養科学部	食物栄養学科	124 単位	有	49.5 単位
	食創造科学科	124 単位	有	49.5 単位
建築学部	建築学科	128 単位	有	49.5 単位
	景観建築学科	128 単位	有	49.5 単位
音楽学部	演奏学科	124 単位	有	49.5 単位
	応用音楽学科	124 単位	有	49.5 単位
薬学部	薬学科	190 単位	有	49.5 単位
	健康生命薬科学科	124 単位	有	49.5 単位
看護学部	看護学科	127 単位	有	49.5 単位
経営学部	経営学科	124 単位	有	43.5 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。

<https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
文学部	日本語日本文学科 (1年次)	895,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	(2年次)	935,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(3年次)	935,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(4年次)	935,000円	—円	200,000円	教育充実費
	英語グローバル学科 (1年次)	895,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	英語文化学科 (2年次)	975,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(3年次)	975,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(4年次)	975,000円	—円	200,000円	教育充実費
	心理・社会福祉学科 (1年次)	1,035,000円	—円	230,000円	教育充実費
	(2年次)	1,035,000円	—円	230,000円	教育充実費
	(3年次)	1,035,000円	—円	230,000円	教育充実費
	(4年次)	895,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
教育学部	教育学科 (1年次)	995,000円	200,000円	230,000円	教育充実費
	(2年次)	1,035,000円	—円	240,000円	教育充実費
	(3年次)	1,035,000円	—円	240,000円	教育充実費
	(4年次)	1,035,000円	—円	240,000円	教育充実費
心理・社会福祉学部	心理学科 (1年次)	995,000円	200,000円	230,000円	教育充実費
	社会福祉学科 (1年次)	995,000円	200,000円	230,000円	教育充実費
健康・スポーツ科学部	健康・スポーツ科学学科 (1年次)	995,000円	200,000円	256,000円	教育充実費・野外実習費
	(2年次)	1,035,000円	—円	296,000円	教育充実費・野外実習費
	(3年次)	1,035,000円	—円	270,000円	教育充実費
	(4年次)	1,035,000円	—円	270,000円	教育充実費
	スポーツマネジメント学科 (1年次)	995,000円	200,000円	256,000円	教育充実費・野外実習費
生活環境学部	生活環境学科 (1年次)	995,000円	200,000円	256,000円	教育充実費・野外実習費
	生活環境学科 情報メディア学科 (2年次)	1,035,000円	—円	250,000円	教育充実費
	(3年次)	1,035,000円	—円	250,000円	教育充実費

	(4年次)	1,035,000円	—円	250,000円	教育充実費
社会情報学部	社会情報学科 (1年次)	990,000円	200,000円	180,000円	教育充実費
食物栄養学部	食物栄養学科 (1年次)	995,000円	200,000円	301,000円	教育充実費・実験実習費
	(2年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	(3年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	(4年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	食創造科学科 (1年次)	995,000円	200,000円	301,000円	教育充実費・実験実習費
	(2年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	(3年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	(4年次)	1,035,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
建築学部	建築学科 (1年次)	1,120,000円	200,000円	380,000円	教育充実費・実験実習費
	(2年次)	1,160,000円	—円	480,000円	教育充実費・実験実習費
	(3年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	(4年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	景観建築学科 (1年次)	1,120,000円	200,000円	380,000円	教育充実費・実験実習費
	(2年次)	1,160,000円	—円	480,000円	教育充実費・実験実習費
	(3年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
	(4年次)	1,140,000円	—円	400,000円	教育充実費・実験実習費
音楽学部	演奏学科 (1年次)	1,370,000円	200,000円	330,000円	教育充実費
	(2年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(3年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(4年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	応用音楽学科 (1年次)	1,370,000円	200,000円	350,000円	教育充実費・実務実習費
	(2年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(3年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
	(4年次)	1,440,000円	—円	330,000円	教育充実費
薬学部	薬学科 (1年次)	1,502,000円	200,000円	362,000円	教育充実費
	(2年次)	1,532,000円	—円	490,000円	教育充実費・実験実習費
	(3年次)	1,532,000円	—円	490,000円	教育充実費・実験実習費
	(4年次)	1,532,000円	—円	490,000円	教育充実費・実験実習費
	(5年次)	1,532,000円	—円	458,000円	教育充実費・実験実習費
	(6年次)	1,502,000円	—円	458,000円	教育充実費・実験実習費
	健康生命薬科学科 (1年次)	1,130,000円	200,000円	370,000円	教育充実費
	(2年次)	1,170,000円	—円	530,000円	教育充実費・実験実習費
	(3年次)	1,170,000円	—円	530,000円	教育充実費・実験実習費
	(4年次)	1,170,000円	—円	530,000円	教育充実費・実験実習費
看護学部	看護学科 (1年次)	1,347,000円	200,000円	328,000円	教育充実費
	(2年次)	1,367,000円	—円	328,000円	教育充実費

	(3年次)	1,367,000円	—円	328,000円	教育充実費
	(4年次)	1,367,000円	—円	328,000円	教育充実費
経営学部	経営学部				
	(1年次)	800,000円	200,000円	200,000円	教育充実費
	(2年次)	1,000,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(3年次)	1,000,000円	—円	200,000円	教育充実費
	(4年次)	1,000,000円	—円	200,000円	教育充実費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 教務部では、教育支援システムの運用を通して、履修、授業運営、試験、成績、学籍に関するサポートと、学修に関わる情報提供を行い、学生が専門分野の知識や幅広い教養を身に付けることができるように支援している。国際センターは、留学プログラムの実施や留学相談、外国語運用能力向上のための支援を行っている。また、海外からの留学生のサポートや交流イベントを実施。附属図書館では、教育・研究活動を支援するために学術情報基盤の構築を遂行。館内利用の情報に加え、電子情報の提供促進も図っている。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) キャリアセンターでは、入学直後から継続的に進路選択に関して支援。タイムリーな情報提供と個別就職相談などのきめ細かい指導で、就職活動をサポートしている。学校教育センターは、教員免許状・保育士資格の取得、採用選考試験受験や就職をサポートしている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 健康サポートセンターは、学生の健康の保持増進、疾病の早期発見や予防を支援するとともに、将来の生活習慣病予防のための取り組みに力を入れている。学生相談センターでは、学生相談およびグループ・プログラム等を通して、学生生活におけるこの健康と成長を目指した支援を行っている。学生サポート室では、修学支援として、授業や学生生活で困りごとのある学生の相談を受け、すべての学生が等しい条件の下で学べるよう必要なサポートを実施。学内外の関係部署との連携や、サポートスタッフ学生の募集・育成も行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページに「大学情報の公表」として掲載している。 https://www.mukogawa-u.ac.jp/gakuin/announce/kouhyou.html
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F128310108883
学校名	武庫川女子大学
設置者名	学校法人 武庫川学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		772人	729人	802人
内 訳	第Ⅰ区分	460人	449人	
	第Ⅱ区分	186人	186人	
	第Ⅲ区分	126人	94人	
家計急変による支援対象者（年間）				11人
合計（年間）				813人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	0人		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	0人		
「警告」の区分に連続して該当	—		
計	12人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であつて、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡つて認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）				
年間	0人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	68人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	—		
計	68人		
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。